

## 2 . 平成 16 年度初期環境調査結果

### ( 1 ) 調査目的

初期環境調査は、化学物質審査規制法第2種監視化学物質や化学物質排出把握管理促進法の候補物質、非意図的生成化学物質、環境リスク初期評価に必要な物質及び社会的要因から必要とされる物質等の環境残留状況の把握を目的とする。

### ( 2 ) 調査対象物質及び調査地点

平成16年度の初期環境調査は、平成16年度化学物質環境実態調査物質選定検討会において検討のうえ、選定された物質・媒体の中から、次の物質(群)・媒体について22物質(群)、延べ30物質(群)・媒体の調査を実施した。

物質 調査 番号	調査対象物質(群)	媒体別調査地点数			
		水 質	底 質	水 生 生 物	大 気
1	4-アミノフェノール	3			
2	1-アリルオキシ-2,3-エポキシプロパン	7			
3	オクタクロロジプロピルエーテル	11	11		
4	1,3-ジクロロプロペン <i>cis</i> -1,3-ジクロロプロペン <i>trans</i> -1,3-ジクロロプロペン	17			21
5	1-ブロモプロパン				19
6	ジコホル		11		
7	ジフェニルメタン		7		
	トリフェニルメタン				
8	ジンクピリチオン	7			
9	短鎖塩素化パラフィン(C10-C13)	2	2	2	
	短鎖塩素化パラフィン(C10)				
	短鎖塩素化パラフィン(C11)				
	短鎖塩素化パラフィン(C12)				
	短鎖塩素化パラフィン(C13)				
10	テトラブロモビスフェノールA				2
11	2,4,6-トリブロモフェノール				2
12	2-ビニルピリジン				6
13	ピリダフェンチオン	12	12		
14	<i>p</i> -フェニレンジアミン類	7			3
	<i>N,N'</i> -ジフェニル- <i>p</i> -フェニレンジアミン (DPPD)				
	<i>N,N'</i> -ジトリル- <i>p</i> -フェニレンジアミン (DTPD)				
	<i>N,N'</i> -ジキシリル- <i>p</i> -フェニレンジアミン (DXPD)				
15	フルアジナム	16			
16	1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカン			6	
17	ヘキサブロモビフェニル				3
18	ペンタクロロニトロベンゼン		16	8	19
19	ホルムアルデヒド			2	

20	ポリブロモジフェニルエーテル類				3
	モノブロモジフェニルエーテル				
	ジブロモジフェニルエーテル				
	トリブロモジフェニルエーテル				
	テトラブロモジフェニルエーテル				
	ペンタブロモジフェニルエーテル				
	ヘキサブロモジフェニルエーテル				
	ヘプタブロモジフェニルエーテル				
21	ペンタブロモジフェニルエーテル		4		
22	2-メトキシエタノール	7			

調査地点は図2～図4のとおりであり、水質は33地点(図2)で1～7物質(群)、底質は28地点(図2)で1～6物質(群)、水生生物は9地点(図3)で1～4物質(群)、うち1地点で全対象物質である4物質(群)を、大気は25地点(図4)で1～9物質(群)、うち1地点で全対象物質である9物質(群)を実施した。

### (3) 調査結果

水質からは2地点2物質(群)[4-アミノフェノール:2地点中1地点、ピリダフェンチオン:12地点中1地点]、底質からは6地点4物質(群)[ジコホル:5地点中2地点、ジフェニルメタン:6地点中2地点、トリフェニルメタン:6地点中1地点、ペンタブロモジフェニルエーテル:4地点中1地点]、水生生物からは3地点2物質(群)[1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカン:6地点中1地点、ホルムアルデヒド:2地点全て]、大気からは16地点7物質(群)[1,3-ジクロロプロペン:20地点中8地点、1-ブロモプロパン:19地点中11地点、2,4,6-トリブロモフェノール:2地点中全て、2-ビニルピリジン:6地点中1地点、*N,N*-ジフェニル-*p*-フェニレンジアミン:1地点、ペンタクロロニトロベンゼン:15地点中1地点、ポリブロモジフェニルエーテル類(モノブロモジフェニルエーテル、ジブロモジフェニルエーテル、トリブロモジフェニルエーテル、テトラブロモジフェニルエーテル、ペンタブロモジフェニルエーテル、ヘキサブロモジフェニルエーテル、ヘプタブロモジフェニルエーテル):3地点全て]が検出された(表1)。

これまでの調査の累計(昭和49年度～平成16年度)では、837物質(群)について調査が行われ、そのうち381物質(群)が一般環境から検出されたこととなる。

	水質	底質	魚類	大気	総数
調査物質数	788	748	259	275	837
検出物質数	162	243	107	184	381
検出割合(%)	20.6	32.5	41.3	66.9	45.5



図2 平成16年度 初期環境調査地点（水質・底質）

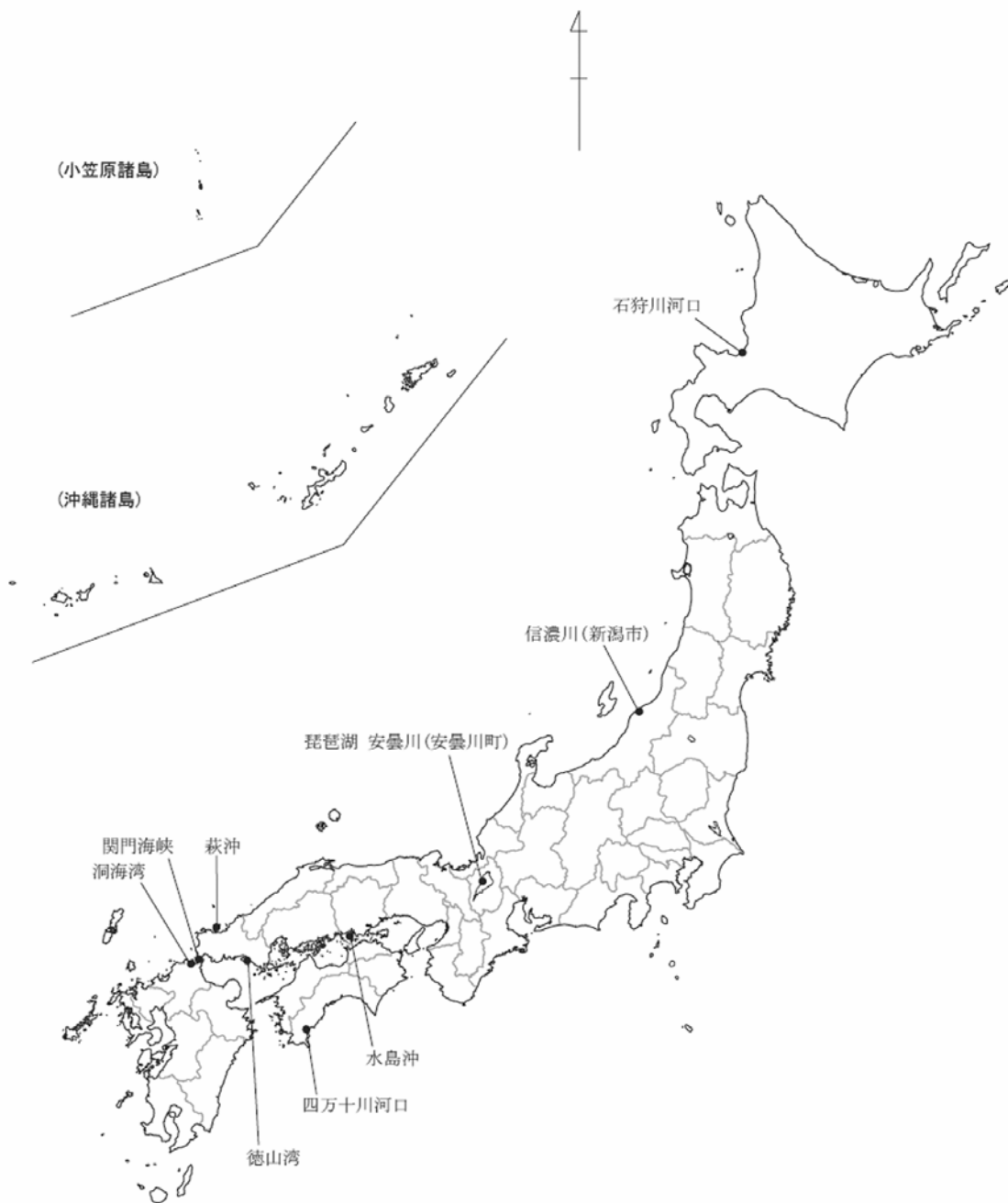


図3 平成16年度 初期環境調査地点（水生生物）



図4 平成16年度 初期環境調査地点 (大気)

表1 平成16年度初期環境調査 検出状況一覧表

物質番号	物質名	水質 ( $\mu\text{g/L}$ ) 全33地点		底質 ( $\text{ng/g-dry}$ ) 全28地点		水生生物 ( $\text{ng/g-wet}$ ) 全9地点		大気 ( $\text{ng/m}^3$ ) 全25地点	
		検出値範囲 (頻度(地点))	検出下限値	検出値範囲 (頻度(地点))	検出下限値	検出値範囲 (頻度(地点))	検出下限値	検出値範囲 (頻度(地点))	検出下限値
1	4-アミノフェノール	0.02 ~ 0.05 (1/2)	0.02						
2	1-アリルオキシ-2,3-エポキシプロパン	---	0.23						
3	オクタクロジプロピルエーテル	---	0.0045	---	2.6				
4	1,3-ジクロロプロペン								
4-1	<i>cis</i> -1,3-ジクロロプロペン	---	0.009					9 ~ 100 (8/20)	9
4-2	<i>trans</i> -1,3-ジクロロプロペン	---	0.008					10 ~ 70 (7/20)	10
5	1-ブロモプロパン							27 ~ 270 (11/19)	25
6	ジコホル			1.7 ~ 6.4 (2/5)	1.2				
7	ジフェニルメタン及びトリフェニルメタン								
7-1	ジフェニルメタン			1.3 ~ 20 (2/6)	0.4				
7-2	トリフェニルメタン			0.9 (1/6)	0.4				
8	ジnkピリチオン	---	0.02						
9	短鎖塩素化パラフィン								
9-1	短鎖塩素化パラフィン C10	---	0.0090	---	0.77	---	0.53		
9-2	短鎖塩素化パラフィン C11	---	0.023	---	3.0	---	1.5		
9-3	短鎖塩素化パラフィン C12	---	0.0086	---	0.34	---	0.20		
9-4	短鎖塩素化パラフィン C13	---	0.0055	---	0.92	---	0.56		
10	テトラブロモビスフェノールA							---	0.03
11	2,4,6-トリブロモフェノール							0.03 ~ 0.14 (2/2)	0.02
12	2-ビニルピリジン							6.2 ~ 18 (1/6)	0.4
13	ピリダフェンチオン	0.004 ~ 0.006 (1/12)	0.003	---	0.22				
14	<i>p</i> -フェニレンジアミン類								
14-1	<i>N,N'</i> -ジフェニル- <i>p</i> -フェニレンジアミン(DPPD)	---	0.006					0.002 ~ 0.009 (1/1)	0.001
14-2	<i>N,N'</i> -ジトリル- <i>p</i> -フェニレンジアミン(DTPD)	---	0.009					---	0.0006
14-3	<i>N,N'</i> -ジキシリル- <i>p</i> -フェニレンジアミン(DXPD)	---	0.020					---	0.001
15	フルアジナム	---	0.0092						
16	1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロデカン					43 ~ 77 (1/6)	7.1		
17	ヘキサブロモフェニル							---	0.00025
18	ペンタクロロニトロベンゼン			---	13	---	1	4.5 (1/15)	0.3
19	ホルムアルデヒド					3,100 ~ 4,200 (2/2)	200		
20	ポリブロモジフェニルエーテル類							0.0015 ~ 0.020 (3/3)	0.00006
20-1	モノブロモジフェニルエーテル							0.000095 ~ 0.00027 (3/3)	0.00006
20-2	ジブロモジフェニルエーテル							0.00023 ~ 0.0033 (3/3)	0.00010
20-3	トリブロモジフェニルエーテル							0.00022 ~ 0.0043 (3/3)	0.00007
20-4	テトラブロモジフェニルエーテル							0.00035 ~ 0.0064 (3/3)	0.00008
20-5	ペンタブロモジフェニルエーテル							0.00035 ~ 0.0054 (3/3)	0.00006
20-6	ヘキサブロモジフェニルエーテル							0.00040 ~ 0.0012 (2/3)	0.00018
20-7	ヘプタブロモジフェニルエーテル							0.00015 ~ 0.00041 (3/3)	0.00014
21	ペンタブロモジフェニルエーテル			0.050 (1/4)	0.035				
22	2-メキシエタノール	---	1.9						

(注1) 網掛けは調査対象外の媒体であることを示す。  
(注2) 頻度(地点)は検出地点数 / 調査地点数を示す。  
(注3) 検出範囲の「---」は検出検体のなかったことを示す。  
(注4) 数値の範囲は検出値の範囲を示す。  
(注5) 1地点につき、3検体を分析しているため、1地点での検出でも検出値が幅記載となっているものがある。

#### (4) 調査結果に対する評価

平成16年度の調査結果の概要は次のとおりである。

今回の調査では、調査対象22物質(群)について調査し、水質10物質(群)中2物質(群)(4-アミノフェノール、ピリダフェンチオン)、底質7物質(群)中4物質(群)(ジコホル、ジフェニルメタン及びトリフェニルメタン、ペンタブロモジフェニルエーテル)、水生生物4物質(群)中2物質(群)(1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカン、ホルムアルデヒド)、大気9物質(群)中7物質(群)(1,3-ジクロロプロペン、1-ブロモプロパン、2,4,6-トリブロモフェノール、2-ビニルピリジン、*N,N*-ジフェニル-*p*-フェニレンジアミン(DPPD)、ペンタクロロニトロベンゼン、ポリブロモジフェニルエーテル)が検出された。

調査結果に対する評価を物質(群)別に示せば、次のとおりである。

##### 4-アミノフェノール 【平成16年度調査媒体：水質】

水質は、昭和61年度の調査では検出下限値 0.8 µg/Lにおいて9地点を調査し、不検出であった。平成16年度は検出下限値 0.02 µg/Lにおいて調査が実施され、2地点中1地点で検出され、検出範囲は 0.02~0.05 µg/Lであった。

##### 1-アリルオキシ-2,3-エポキシプロパン 【平成16年度調査媒体：水質】

水質は、平成16年度が初めての調査であり、検出下限値 0.23 µg/Lにおいて調査が実施され、7地点全てで不検出であった。

##### オクタクロロジプロピルエーテル 【平成16年度調査媒体：水質、底質】

水質は、昭和56年度の調査では検出下限値 0.01~0.025 µg/Lにおいて8地点を調査し、不検出であった。昭和59年度の調査では検出下限値 0.001~0.002 µg/Lにおいて8地点を調査し、不検出であった。平成16年度は検出下限値 0.0045 µg/Lにおいて調査が実施され、9地点全てで不検出であった。水質中のオクタクロロジプロピルエーテルは、過去の調査において不検出であり、今回調査した地点及び検出下限値においても検出されなかった。

底質は、昭和56年度の調査では検出下限値 1~2.9 ng/g-dryにおいて8地点を調査し、不検出であった。昭和59年度の調査では検出下限値 0.05~0.23 ng/g-dryにおいて8地点を調査し、不検出であった。平成16年度は検出下限値 2.6 ng/g-dryにおいて調査が実施され、9地点全てで不検出であった。底質中のオクタクロロジプロピルエーテルは、過去の調査において不検出であり、今回調査した地点及び検出下限値においても検出されなかった。

*cis*-1,3-ジクロロプロペン 【平成16年度調査媒体:水質、大気】

*trans*-1,3-ジクロロプロペン 【平成16年度調査媒体:水質、大気】

#### *cis*-1,3-ジクロロプロペン

水質は、検出下限値 0.009 µg/Lにおいて調査が実施され、14地点全てで不検出であった。水質中の*cis*-1,3-ジクロロプロペンは、過去の調査において不検出であり、今回調査した地点、時期及び検出下限値においても検出されなかった。

大気は、平成16年度が初めての調査であり、検出下限値 9 ng/m<sup>3</sup>において調査が実施され、20地点中8地点で検出され、検出範囲は 9～100 ng/m<sup>3</sup>であった。

#### *trans*-1,3-ジクロロプロペン

水質は、検出下限値 0.008 µg/Lにおいて調査が実施され、14地点全てで不検出であった。水質中の*trans*-1,3-ジクロロプロペンは、過去の調査において不検出であり、今回調査した地点、時期及び検出下限値においても検出されなかった。

大気は、平成16年度が初めての調査であり、検出下限値 10 ng/m<sup>3</sup>において調査が実施され、20地点中7地点で検出され、検出範囲は 10～70 ng/m<sup>3</sup>であった。

#### 1-プロモプロパン 【平成16年度調査媒体:大気】

大気は、平成16年度が初めての調査であり、検出下限値 25 ng/m<sup>3</sup>において調査が実施され、19地点中11地点で検出され、検出範囲は 27～270 ng/m<sup>3</sup>であった。

#### ジコホル 【平成16年度調査媒体:底質】

底質は、昭和53年度の調査では検出下限値 3～11 ng/g-dryにおいて8地点を調査し、不検出であった。平成16年度は検出下限値 1.2 ng/g-dryにおいて調査が実施され、5地点中2地点で検出され、検出範囲は1.7～6.4 ng/g-dryであった。

#### ジフェニルメタン及びトリフェニルメタン 【平成16年度調査媒体:底質】

##### ジフェニルメタン

底質は、昭和58年度の調査では検出下限値 4～41 ng/g-dryにおいて11地点を調査し、11地点中2地点で検出され、検出範囲は 59～160 ng/g-dryであった。昭和59年度の調査では検出下限値 0.4～44 ng/g-dryにおいて46地点を調査し、46地点中4地点で検出され、検出範囲は 0.6～1.9 ng/g-dryであった。平成16年度の調査は検出下限値 0.4 ng/g-dryにおいて調査が実施され、6地点中2地点で検出され、検出範囲は 1.3～20 ng/g-dryであった。過去の調査と比較すると、同程度の濃度レベルで引き続き検出されている。



#### トリフェニルメタン

底質は、昭和58年度の調査では検出下限値 8~41 ng/g-dryにおいて11地点を調査し、不検出であった。平成16年度は、検出下限値 0.4 ng/g-dryにおいて調査が実施され、6地点中1地点で検出され、検出値は 0.9 ng/g-dryであった。

#### ジंकピリチオン 【平成16年度調査媒体：水質】

水質は、平成16年度が初めての調査であり、検出下限値 0.02 µg/Lにおいて調査が実施され、5地点全てで不検出であった。

#### 短鎖塩素化パラフィン（炭素数10~13のもの）【平成16年度調査媒体：水質、底質、水生生物】

##### 短鎖塩素化パラフィン C10

水質は、平成16年度が初めての調査であり、検出下限値 0.0090 µg/Lにおいて調査が実施され、2地点全てで不検出であった。

底質は、平成16年度が初めての調査であり、検出下限値 0.77 ng/g-dryにおいて調査が実施され、2地点全てで不検出であった。

水生生物は、平成16年度が初めての調査であり、検出下限値 0.53 ng/g-wetにおいて調査が実施され、2地点全てで不検出であった。

##### 短鎖塩素化パラフィン C11

水質は、平成16年度が初めての調査であり、検出下限値 0.023 µg/Lにおいて調査が実施され、2地点全てで不検出であった。

底質は、平成16年度が初めての調査であり、検出下限値 3.0 ng/g-dryにおいて調査が実施され、2地点全てで不検出であった。

水生生物は、平成16年度が初めての調査であり、検出下限値 1.5 ng/g-wetにおいて調査が実施され、2地点全てで不検出であった。

##### 短鎖塩素化パラフィン C12

水質は、平成16年度が初めての調査であり、検出下限値 0.0086 µg/Lにおいて調査が実施され、2地点全てで不検出であった。

底質は、平成16年度が初めての調査であり、検出下限値 0.34 ng/g-dryにおいて調査が実施され、2地点全てで不検出であった。

水生生物は、平成16年度が初めての調査であり、検出下限値 0.20 ng/g-wetにおいて調査が実施され、2地点全てで不検出であった。

##### 短鎖塩素化パラフィンC13

水質は、平成16年度が初めての調査であり、検出下限値 0.0055 µg/Lにおいて調査が実施され、2地点全てで不検出であった。

底質は、平成16年度が初めての調査であり、検出下限値 0.92 ng/g-dryにおいて調査が実施され、2地点全てで不検出であった。

水生生物は、平成16年度が初めての調査であり、検出下限値 0.56 ng/g-wetにおいて調査が実施され、2地点全てで不検出であった。

#### テトラブロモビスフェノールA 【平成16年度調査媒体：大気】

大気は、平成16年度が初めての調査であり、検出下限値 0.03 ng/m<sup>3</sup>において調査が実施され、2地点全てで不検出であった。

#### 2,4,6-トリプロモフェノール 【平成16年度調査媒体：大気】

大気は、平成16年度が初めての調査であり、検出下限値 0.02 ng/m<sup>3</sup>において調査が実施され、2地点中2地点で検出され、検出範囲は 0.03～0.14 ng/m<sup>3</sup>であった。

#### 2-ビニルピリジン 【平成16年度調査媒体：大気】

大気は、平成3年度の調査では検出下限値 16 ng/m<sup>3</sup>において17地点を調査し、17地点中4地点で検出され、検出範囲は 17～30 ng/m<sup>3</sup>であった。平成16年度は検出下限値 0.4 ng/m<sup>3</sup>において調査が実施され、6地点中1地点から検出され、検出範囲は 6.2～18 ng/m<sup>3</sup>であった。過去の調査と比較して、検出濃度範囲は同じであり、検出下限値を下げた調査を実施したが、検出頻度及び検出濃度範囲に大きな変化はなかった。

#### ピリダフェンチオン 【平成16年度調査媒体：水質、底質】

水質は、平成13年度の調査では検出下限値 0.11 µg/Lにおいて17地点を調査し、不検出であった。平成16年度は、検出下限値 0.003 µg/Lにおいて調査が実施され、12地点中1地点で検出され、検出範囲は 0.004～0.006 µg/Lであった。

底質は、平成13年度の調査では検出下限値 11 ng/g-dryにおいて17地点を調査し、不検出であった。平成16年度は、検出下限値 0.22 ng/g-dryにおいて調査が実施され、12地点全てで不検出であった。底質中のピリダフェンチオンは過去の調査において不検出であり、今回調査した地点、時期及び検出下限値においても検出されなかった。

#### *p*-フェニレンジアミン類 【平成16年度調査媒体：水質、大気】

##### *N,N'*-ジフェニル-*p*-フェニレンジアミン (DPPD)

水質は、平成16年度が初めての調査であり、検出下限値 0.006 µg/Lにおいて調査が実施され、6地点全てで不検出であった。

大気は、平成16年度が初めての調査であり、検出下限値 0.001 ng/m<sup>3</sup>において調査が実施され、1地点中1地点で検出され、検出範囲は 0.002～0.009 ng/m<sup>3</sup>であった。

#### *N,N'*-ジトリル-*p*-フェニレンジアミン (DTPD)

水質は、平成16年度が初めての調査であり、検出下限値 0.009 µg/Lにおいて調査が実施され、6地点全てで不検出であった。

大気は、平成16年度が初めての調査であり、検出下限値 0.0006 ng/ m<sup>3</sup>において調査が実施され、1地点で不検出であった。

#### *N,N'*-ジキシリル-*p*-フェニレンジアミン (DXPD)

水質は、平成16年度が初めての調査であり、検出下限値 0.020 µg/Lにおいて調査が実施され、6地点全てで不検出であった。

大気は、平成16年度が初めての調査であり、検出下限値 0.001 ng/ m<sup>3</sup>において調査が実施され、1地点で不検出であった。

#### フルアジナム 【平成16年度調査媒体：水質】

水質は、平成16年度が初めての調査であり、検出下限値 0.0092 µg/Lにおいて調査が実施され、15地点全てで不検出であった。

#### 1,2,5,6,9,10-ヘキサブプロモシクロドデカン 【平成16年度調査媒体：水生生物】

水生生物は、平成16年度が初めての調査であり、検出下限値 7.1 ng/g-wetにおいて調査が実施され、6地点中1地点で検出され、検出範囲は 43~77 ng/g-wetであった。

#### ヘキサブプロモビフェニル 【平成16年度調査媒体：大気】

大気は、平成16年度が初めての調査であり、検出下限値 0.25 pg/m<sup>3</sup>において調査が実施され、1地点で不検出であった。

なお、POPs条約の候補として提案された対象物質となっていることから、現在、より高感度の分析法の開発に着手している。

#### ペンタクロロニトロベンゼン 【平成16年度調査媒体：底質、水生生物、大気】

底質は、昭和56年度の調査では、検出下限値 0.5 ng/g-dryにおいて4地点を調査し、不検出であった。平成3年度の調査では、検出下限値 39 ng/g-dryにおいて17地点を調査し、不検出であった。平成16年度は、検出下限値 13 ng/g-dryにおいて調査が実施され、12地点全てで不検出であった。底質中のペンタクロロニトロベンゼンは、過去の調査において不検出であり、今回調査した地点、時期及び検出下限値においても検出されなかった。

水生生物は、平成3年度の調査では、検出下限値 35 ng/g-wetにおいて17地点を調査し、不検出であった。平成16年度は、検出下限値 1 ng/g-wetにおいて調査が実施され、8地点全てで不検出であった。水生生物中のペンタクロロニトロベンゼンは、過去の調査において不検出であり、今回調査した地点、時期及び検出下限値においても検出されなかった。

大気は、平成3年度の調査では、検出下限値 6 ng/m<sup>3</sup>において16地点を調査し、16地点中4地点

で検出され、検出範囲は 6.2～13 ng/m<sup>3</sup>であった。平成16年度は、検出下限値 0.3 ng/m<sup>3</sup>において調査が実施され、15地点中1地点で検出され、検出値は 4.5 ng/m<sup>3</sup>であった。過去の調査と比較して、検出下限値を下げての調査であったが、検出頻度は低下している。

#### ホルムアルデヒド 【平成16年度調査媒体：水生生物】

水生生物は、平成16年度が初めての調査であり、検出下限値 200 ng/g-wetにおいて調査が実施され、2地点全てで検出され、検出範囲は、3,100～4,200 ng/g-wetであった。

#### ポリプロモジフェニルエーテル類 【平成16年度調査媒体：大気】

##### ポリプロモジフェニルエーテル類（1～7 臭素化物）

大気は、平成13年度の調査では検出下限値 0.05～0.5 pg/m<sup>3</sup>において12地点を調査し、12地点中12点で検出され、検出範囲は 0.07～67 pg/m<sup>3</sup>であった。平成16年度は、検出下限値 0.06 pg/m<sup>3</sup>において調査が実施され、3地点中3地点で検出され、検出範囲は、1.5～20 pg/m<sup>3</sup>であった。過去の調査と比較して、同程度の濃度レベルで引き続き検出されている。

##### モノプロモジフェニルエーテル

大気は、平成13年度の調査では検出下限値 0.4 pg/m<sup>3</sup>において12地点を調査し、12地点中3点で検出され、検出範囲は 0.4～2.0 pg/m<sup>3</sup>であった。平成16年度は、検出下限値 0.06 pg/m<sup>3</sup>において調査が実施され、3地点中3地点で検出され、検出範囲は、0.095～0.27 pg/m<sup>3</sup>であった。過去の調査と比較して、検出下限値を下げて調査を実施したため、検出頻度は増加したものの、検出濃度範囲は低下した。

##### ジプロモジフェニルエーテル

大気は、平成13年度の調査では検出下限値 0.2 pg/m<sup>3</sup>において12地点を調査し、全地点で検出され、検出範囲は 0.2～12 pg/m<sup>3</sup>であった。平成16年度は、検出下限値 0.10 pg/m<sup>3</sup>において調査が実施され、3地点中3地点で検出され、検出範囲は、0.23～3.3 pg/m<sup>3</sup>であった。過去の調査と比較して、同程度の濃度レベルで引き続き検出されている。

##### トリプロモジフェニルエーテル

大気は、平成13年度の調査では検出下限値 0.05 pg/m<sup>3</sup>において12地点を調査し、全地点で検出され、検出範囲は 0.07～7.9 pg/m<sup>3</sup>であった。平成16年度は、検出下限値 0.07 pg/m<sup>3</sup>において調査が実施され、3地点中3地点で検出され、検出範囲は、0.22～4.3 pg/m<sup>3</sup>であった。過去の調査と比較して、同程度の濃度レベルで引き続き検出されている。

##### テトラプロモジフェニルエーテル

大気は、平成13年度の調査では検出下限値 0.5 pg/m<sup>3</sup>において12地点を調査し、12地点中10点

で検出され、検出範囲は 0.5～10 pg/m<sup>3</sup>であった。平成16年度は、検出下限値 0.08 pg/m<sup>3</sup>において調査が実施され、3地点中3地点で検出され、検出範囲は、0.35～6.4 pg/m<sup>3</sup>であった。過去の調査と比較して、同程度の濃度レベルで引き続き検出されている。

#### ペンタプロモジフェニルエーテル

大気は、平成13年度の調査では検出下限値 0.09 pg/m<sup>3</sup>において12地点を調査し、全地点で検出され、検出範囲は 0.10～9.3 pg/m<sup>3</sup>であった。平成16年度は、検出下限値 0.06 pg/m<sup>3</sup>において調査が実施され、3地点中3地点で検出され、検出範囲は、0.35～5.4 pg/m<sup>3</sup>であった。過去の調査と比較して、同程度の濃度レベルで引き続き検出されている。

#### ヘキサプロモジフェニルエーテル

大気は、平成13年度の調査では検出下限値 0.10 pg/m<sup>3</sup>において12地点を調査し、全地点で検出され、検出範囲は 0.11～11 pg/m<sup>3</sup>であった。平成16年度は、検出下限値 0.18 pg/m<sup>3</sup>において調査が実施され、3地点中2地点で検出され、検出範囲は、0.40～1.2 pg/m<sup>3</sup>であった。過去の調査と比較して、同程度の濃度レベルで引き続き検出されている。

#### ヘプタプロモジフェニルエーテル

大気は、平成13年度の調査では検出下限値 0.20 pg/m<sup>3</sup>において12地点を調査し、12地点中9地点で検出され、検出範囲は 0.21～38 pg/m<sup>3</sup>であった。平成16年度は、検出下限値 0.14 pg/m<sup>3</sup>において調査が実施され、3地点中3地点で検出され、検出範囲は、0.15～0.41 pg/m<sup>3</sup>であった。過去の調査と比較して、同程度の濃度レベルで引き続き検出されている。

#### 21 ペンタプロモジフェニルエーテル類 【平成16年度調査媒体：底質】

底質は、平成16年度が初めての調査であり、検出下限値 0.035 ng/g-dryにおいて調査が実施され、4地点中1地点で検出され、検出値は、0.050 ng/g-dryであった。

#### 22 2-メトキシエタノール 【平成16年度調査媒体：水質】

水質は、昭和51年度の調査では、検出下限値 90～100 μg/Lにおいて20地点を調査し、不検出であった。平成16年度は、検出下限値 1.9 μg/Lにおいて調査が実施され、6地点全てで不検出であった。水質中の2-メトキシエタノールは、過去の調査において不検出であり、今回調査した地点及び検出下限値においても検出されなかった。